

地球環境時代における教育小委員会 第1回議事録

■日時：平成22年 5月 21日（金） 18:00～20:30

5

■場所：建築会館 会議室 305

■出席者：宿谷昌則（東京都市大学）、菅原正則（宮城教育大学）、高橋達（東海大学）、
伊藤一哉（(株)EP&B）大森栄佳（フリー）、小田桐直子（エコフローサポート本部）、
鈴木信恵（東京都市大学）、妹尾理子（香川大学）、高柳有希（エコフローサポート本部）、
廣谷純子（エコフローサポート本部）、村田昌樹（OMソーラー）
：11名

10

■資料：1-0 地球環境時代における教育小委員会 第1回 議事次第
1-1 地球環境時代における教育小委員会 第4回 議事録（案）
1-2 エコ改修後の学校で快適に生活する 運用ガイド作成のための手引き
1-3 学校エコ改修と環境教育事業 モデル校における3年間の取り組みのまとめ

15

■議事：

20

1. 議事録確認

前回議事録案（資料1-1）は、承認された。

妹尾委員から、改修校舎入居後の様子が紹介された。A/C 以外の環境調整が想定されておらず、また、せっかくのロスナイ換気がむやみに停止されていることが多い。そのため、建材臭がきつく、トラブルも起き始めている。

25

2. 学校のエコ改修と環境教育のこれまで

小田桐氏から標記（資料1-2、1-3）について説明があった。

学校エコ改修事業の期間が終わった後に、活動が停止・縮小してしまう問題について、様々な対策の事例や提案が紹介された。

30

- ・「エコまつり（授業参観）」のような年中行事にする。
- ・「エコ学校」宣言する。
- ・市長に表彰してもらおう。成功事例だけではなく、失敗事例であっても分析が優れていれば。
- ・環境教育の内容を多くしすぎない（負担感を抑える）。
- ・グループで取り組み、特定の先生に任せっきりにしない。定期的に引き継ぎをする。
- ・電力などの使用量を測定した結果は、日付・時刻が分かるようにして見ると、生活との関係が分かり、関心が高まる。
- ・学校校舎の使い方が分かるようにする。例えば、スイッチや太陽光パネルなどのデザイン、校舎利用マニュアル作成において、設計者とよく話し合う。
- ・エコスクールなど補助金事業においては、エネルギー使用量などの報告義務を抱き合わせにする。
- ・児童生徒の変容や教育上の効果についても記録・蓄積できるとよい。
- ・エコ活動の成果が、お金やCO₂の量、ポイントなどで分かりやすく示すようにする。

35

40

3. 次回開催日

次回委員会は、8月6日（金）16:00 から建築会館会議室で行うことになった。

45

以上